



2012年5月30日放送

印象に残る症例②

あべ医院 院長 福原 恵子

日頃患者さんから「漢方は効き目が出るのに時間がかかるんですね?」とよく聞かれます。風邪などの急性期疾患はさておき、確かに慢性疾患や体質的な要因からくる症状は徐々に改善していく場合がほとんどで、少し良くなったかなと患者さん自身がその効果を実感するには早くても治療開始から2週間～1ヶ月程度は必要なことが多いと思います。しかし時に治療者側もびっくりするくらい劇的なスピードで効果が現れることがあります。

本日は数十年間に亘り悩んでいた症状のほとんどが、釣藤散という漢方を開始してからわずか数時間～数日で消失したという症例を2つ後紹介いたします。

まず1例目は80歳の男性です。主訴はめまいです。約40年前からほど毎日のめまい、肩こりに悩まされてきました。浮遊性のめまいが主ですが、ひどい時は回転性になります。頭痛も時々あります。耳鼻咽喉科で精密検査を受けても異常がないと言われ、メシル酸ベタヒスチンの内服を続けておられましたが効果ははっきりしません。漢方で治してほしいと来院されました。顔面が少し紅潮し、眉間の皺が深く、目がややつりあがっていて雰囲気はちょっと頑固なおじいさんという感じでした。身長155.3cm、体重50.9kg、血圧140/78、舌証は暗紅、薄い白苔あり、舌下静脈の怒張を認め、脈証は浮沈中間、やや弱、やや大。

腹証は腹力やや虚、心下痞、右胸脇苦満、腹直筋緊張、小腹不仁を認めました。浮腫はありません。夜間尿が2回ありますが便通は正常。胃腸は弱くありません。ツムラ釣藤散エキス7.5g/日を分2で処方しました。すると内服を開始して2~3日後にはめまいはあきらかに減り、5日目にはほぼ消失しました。そして8週間後には頭痛や肩こりまですっかりなくなりました。「40年も悩んできたのは何だったのかと思います」と首をかしげながらおっしゃっていました。その後もしばらく内服は継続していましたが、「もう大丈夫だと思っからやめてみたい」というご本人の希望で約半年で治療終了としました。その後、数年して残念ながら別の疾患でお亡くなりになられたと風の便りで聞きましたが、いつも診療開始の朝一番乗りで嬉しそうに薬を取りに来ておられた姿が今でも私の目に焼き付いています。釣藤散を処方するたびにこの患者さんを思い出します。

そして2例目は77歳の女性です。主訴は頭痛です。若い頃から頭痛持ちでしたが、特にここ10年間は毎日、重だるいような頭痛があるということでした。一日の中でも特に朝起床時は調子が悪くて頭痛がつらく感じられ、目の奥が痛くなったり、ひどい肩こりも度々起こるそうです。鎮痛剤をしょっちゅう飲んでおられ、そのためか胃の調子も悪くて心窩部もムカムカしていると訴えられます。どことなくイライラした険しい表情をしておられました。身長152cm、体重47kg、血圧116/68、舌証はやや紅でやや乾燥し、薄い黄苔がありました。脈証は浮沈中間、虚実中間。腹証は腹力やや虚、心下痞硬、臍上悸をみとめ、小腹不仁が著明でした。浮腫はありません。夜間尿が2回ありますが便通は正常です。ツムラ釣藤散エキス7.5g/日を分2で処方しました。2週間後に受診されましたが、「先生、もう、びっくりしましたよ。すぐ効きました。飲み始めた初日の最初の1袋を飲んでしばらくしたら徐々にすーっと頭がスッキリしてきたんです」とやや興奮気味に話されました。その後も内服を継続していますが毎日の頭痛は全くなり、ストレスや疲れがひどい時のみ時々頭痛がするという程度になりました。胃の調子も良くなり、最初の受診の時に常に眉間に寄っていた皺がなくなり、「魔法のようです」と穏やかな笑顔で話されました。

釣藤散は『本事方』という中国の金の時代の古典書が原典で、その条文には「肝厥頭暈スルコトヲ治ス」とあります。肝厥とは感情をコントロールしている肝の働きがストレスなどで低下するために精神的に不安定になって、カーッと怒りっぽく、ややヒステリー気味になっている状態のことです。頭暈は頭がふらふらする感じということですが、その言葉どおり、イライラしやすい人の慢性の頭痛やめまいによく使用されます。ご紹介した2例ともどことなくイライラして頭に血がのぼっているような雰囲気を感じたことも釣藤散を選択した理由の一つです。釣藤散は釣藤鈎、菊花、防風、人參、茯苓、石膏、麦門冬、半夏、陳皮、生姜、甘草の11味からなります。君薬として中心的な働きをするのは釣藤鈎です。釣藤鈎には肝を鎮めて気の上衝を抑える働きがあります。また、菊花という目の充血、かすみ目などの目の疲れをほぐす生薬が入っています。これは現在発売されている医

療用漢方エキス剤の中では釣藤散にしか入っていません。眼が充血していたり目が重いなどと目の症状を訴える人の頭痛にいいということがお分かりいただけると思います。また、釣藤散のもう一つの特徴は人参、茯苓、半夏、陳皮、生姜、甘草といった脾胃を補う生薬がたくさん入っていることです。ですので、2例目の症例のように頭痛以外に胃の調子が悪いとか胃腸が弱いという人に良い適応があります。

また、漢方の効果発現までの時間についてですが、上気道炎などの急性疾患に対して使用される麻黄湯、葛根湯などは数回服用しただけで汗が出て熱も下がり一気に回復するということは日常よく経験しますし、急性疾患についてはそれが当然の治療経過です。そしてまた、一般的には構成生薬の数が少ない漢方の方が効果の発現は早いと言われています。例えば一つの例として、こむらがえりに頓服用に使用され、短時間で著効することで有名な芍薬甘草湯という薬があります。これは芍薬と甘草の2味からなります。しかし、釣藤散は11味で比較的構成生薬数が多い方剤です。しかも慢性的な症状に使用されることの多い漢方なのですが、今回の2症例は内服開始数時間～数日で劇的に症状の改善がみられました。まさに方証相対。薬と証がぴたっと合えば、たとえ慢性症状だとしてもこういった変化は期待できるのではないかと思います。

今回提示させていただいた2症例のようなめまいや頭痛は日常診療の中で頻繁にみられる訴えです。西洋医学的に検査をしても原因がはっきりせず、鎮痛剤などの対症療法で何とかしのいでいるという患者さんはたくさんおられます。東洋医学的には頭痛やめまいの原因は様々です。気血水いずれのバランスが悪くても起こり得ますので、その患者さんにとって最も歪みの大きい病態は何かを考えて治療します。具体的には水毒が原因の場合には苓桂朮甘湯、半夏白朮天麻湯、当帰芍薬散、真武湯など、気の異常が関係している場合には半夏厚朴湯、香蘇散などの気剤や柴胡剤を考慮しますし、また瘀血による病態に対しては桂枝茯苓丸などの駆瘀血剤を用いることもあります。その他、まだまだ頭痛やめまいに使用される漢方薬は数多くありますので、実際に処方する際には迷われることも多いと思いますが、釣藤散が有効な患者さんは少なくありません。今回のわたくしのお話を聞いて、今後、釣藤散を使用する際の参考にしていただければ幸いです。